



第1回復興支援ボランティア
参加者の声（アンケートより）
期間：2011年6月24日～6月27日
参加者数：19名



今回の活動に参加した感想をお書きください
<p>私が活動を行った借家は、若い親子のお部屋で卒園証書や衣類、家具など私たちが京都に住まいがあるのと同じようなモノを全て片付け、それについているヘドロを袋詰めするという、その親子にとって切なく、悲しくなるようなことでした。しかし、この家が建っていた場所以外の家は、今までと変わらず、何も起こってないのかと思わせるほど、普通だったのが驚きました。</p> <p>この2日間の作業を通じて、仲間の力やありがたみ大人数のパワーを感じられ、自分自身これからの人生の糧にしていけるように生きていきたいです。</p>
<p>現地の方が悲観するのではなく、前を向いて協力し合い、私たちにも笑顔を決やさず、接してくださって、反対に勇気をもらえました。この震災の記憶を心に刻みたいと思うので、これからも積極的に活動を続けていきたいです。</p>
<p>作業している私たちにたくさんの方が声をかけてくれたり、水道やお手洗いを貸してくれたり、銭湯で出会った方から「石巻に住んでいる知人が津波は大変だったけど、人の温かさをとても感じるって言ってたよ。」という言葉の聞いたりとすると、本当に人の温かさを感じたり、町中のいたる所に、積み上げられている土嚢を見ると、本当にたくさんの人達が作業にたずさわっているということを知り、人と人との繋がりの大切さや人間の強さを感じました。</p>
<p>1日目の家の瓦礫撤去で、アルバムや遺影を見つけて、そこに住んでいた人々は、津波であらゆる物と共に“思い出”や“命”といったお金では買うことの出来ない、かけがえのないものを失ったのだと実感しました。</p>
<p>町内会長さんの話を聞いて、もし私の住む区域なら同じような対応は全く出来ないと思ったので、この地域の方同士のコミュニケーションは素晴らしいと思いました。</p> <p>京都へ帰ったら、同じ研究室の人たちに話したり、ボランティアに興味を持ってきている子に情報を伝えたり、また震災を忘れないように将来自分の子供に話したりしていきたいと思います。</p>
<p>自分に出来た事は全体から見ればごくわずかなものだが、メンバーとの協力によってもう少し、大きな貢献をする事ができたと思います。帰った後は、家族や知り合いにこの事を伝えていきたいです。</p>
<p>一人ではただ頭で考えたり、心配するだけしか出来なかったのが、実際に現場に行くことは大切な事だと痛感しました。今回の経験を通して、災害ボランティアはもちろん、様々なボランティア活動をしてみたいと思いました。また、東北にもすごく魅力を感じたので、ボランティアではなく、観光でも絶対来ようと思います。ボランティアをしようと思い、実行した人達と一緒に活動できて本当に貴重な体験をさせてもらったと思います。</p>
<p>普段は何気ないコンクリートの水路清掃でも津波の被害の大きさやその場所がどういう場所であったのかを考えることができました。全くお互いを知らない人同士だからこそ、最後に団結力が高まり、活動がスムーズに行えたことは被災地の方のためでもあるし、それが自分達への達成感にもつながりました。新たに多くの人と知り合いになれたこともあってとても充実した4日間でした。</p>
<p>被災地の状況、被災者の方のお話、ボランティアの方々のお話、直接肌で感じることでしか知り得ないことがたくさんありました。言葉で表すには難しいことですが、これから僕らがすべきことは、いかにして今回の体験を周囲の人間に伝え、次につなげていくかだと思っています。</p>

今後も何らかの復興支援に関する活動を続けたい理由はなんですか？
今回のボランティアに参加して、現地の方が「お疲れ様」とか「ありがとう」と言ってくれたのを聞き、少しでも役に立てたと感じたから、また活動に参加したいです。
自分ひとりの力は小さいですが、みんなで協力すれば、大きな力となり、復興へと近づいていくのだと身にしみるほど分かったため、今後も少しでも力になりたいと思いました。
現地の方のお話を直接お伺いして、本当の声を聞きたいからです。また微力ながら力になりたいからです。
実際に現地に行ってみないと分からないことや感じられないことがたくさんあるし、このような場でなければ出会えない仲間に出会うことができるから。
一日でも一秒でも早く被災された方々が安心できる生活へと戻れるようにサポートしたいからです。助けを必要としている方々がいるならば目を背けることは絶対出来ないし、何かしら自分のできることをしたいからです。
今回のボランティアは、かなり体力的に疲れるものがあったが、今回の活動で少しでも被災地の状況が良くなる手伝いできたのではないかと感じました。決して今回も含め、被災地の復興の為の支援は無駄ではないと感じ、自分の出来る限りの事をしていきたいです。
とにかく1日でも早く復興が進んで欲しいです。同じ国に住む日本人として苦しむ人々を見捨てることは絶対に出来ないし、体力・時間ともにありあまっている自分達を中心となって支援していかないといけないと深く感じました。
大学生の今しか時間に余裕がある時はないので、自分のやるべき事をできる範囲でやりたいです。今回活動してみても一箇所を何十人かけて取り掛かっても、大変な労力と時間がかかると分かったし、自分が出来る仕事もあると分かりました。
やはり大学生が一番力があるし、時間もあと思うので、まだまだ、人手の足りない津波被害の支援はとても重要だと今回大きく感じたから、少しでも早い復興支援を手助けしたいからです。
3) どういった活動をしたいと考えていますか？
龍谷祭で何か出来たらと思います。第1陣や第2陣などの経験を語れるような機会を作りたいと思います。
また復興支援ボランティアに参加したい。また、私はボランティアに初めて参加したのですが、これをきっかけにまた違ったボランティアにも参加してみたい。
復興支援に携われるならどんな形でも都合が合えばしたい。今回のような直接現地に足を運ぶ活動は是非今後とも続けたい！！
継続的な支援。瓦礫や溝の清掃とともに、地域を盛り上げる・元気にするためのイベントの企画に協力したいです。
避難場所や仮設住宅で暮らす方のメンタルのケアになるような活動も是非行いたい。
避難所などで、メンタルへの支援をしたいのと、被災地と地方のセンターとのつながりを深め、学生や一般の人々に被災地を知ってもらいたい。
被災地域、もしくは近隣の地域の大学生と連携した活動。具体的な内容等は刻々と変化している現状、なかなか思いつきませんが、被災者の方々のケア、一人になってしまった高齢者の方、これから生きる子ども達、大学生という年代だからこそ出来ることが必ずあるはずで。
関西でも募金活動や現地の物産展の売買などで、お手伝いが出来ればと考えています。また夏休みやその後もこちらに寄せて頂きたいと思っています。